

# 「3・11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.24 2014/4/27



## 三度目の3.11 集会が開催

3.11 を前にした3月9日(日)午後、3回目となる「3.11 集会」が行われました。3月11日にはできるだけスタッフたちにいつものように被災地で寄り添い、関わりを持って欲しいという願いと、県内の諸教会の皆さんに集っていただけるようにと、あえて日曜日開催となりました。

約130名の方々が集い、各エリアの働きの報告、沿岸の教会からお二人の証し、盛岡の2教会の特設聖歌隊による特別賛美、佐々木牧師によるメッセージ。一貫して流れる響きは「教会のわざとしての支援活動であること」でした。

間もなく迎える4年目の被災地では、さらに深くやわらかく寄り添う教会、クリスチャンの存在が必要です。これからもお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

(集会で証して下さった芝本るみ子姉と新沼友子姉の証しを2～4ページに掲載しました。)



## いっぽいっぽ山田の引継ぎ

OMF のプロジェクトとして立ち上げられ、今まで運営されてきた「いっぽいっぽ山田」が、社団法人として新しい体制の下で始められることになりました。母体となって下さったのは札幌の北栄キリスト教会です。引継ぎの作業が現在なされています。いっぽいっぽ山田の働きが、福音を地域に届けるためによく整えられ、今後とも豊かに用いられますように続けてお祈り下さい。

## 新しいスタッフ

国際センド宣教団の宣教師で香港人のヤムエル・リー宣教師ご家族が釜石に越してこられ、働きを開始されました。今後、いっぽいっぽ釜石・大槌を中心に、被災者の方々、地域の方々と関わり、証して下さいます。

3.11いわて教会ネットワークNEWS

## 3年間の感謝をこめて

宮古コミュニティチャーチ 芝本るみ子

私は昨年の4月からスタッフとして働かせていただいています。出身は宮古です。震災から3年がたちますが、今日は特にこの3年間の感謝の証しをさせていただきたいと思います。

宮古の教会は、交通の不便さもあって、震災前は他の教会の方々と交わる機会があまりありませんでした。震災は、つらい経験でしたが、震災直後から、たくさんのクリスチャンがボランティアに来て下さり、いっしょに礼拝を捧げ、交わりが出来た事は教会のメンバーの大きな慰めと励みになりました。

私自身もスタッフになってから、ボランティアに来て下さった方との大切な出会いがありました。私は津波の被害を直接は受けませんでした。震災後、海が怖くなり、テレビや写真も海が写っているものは避けるようになっていました。車で海沿いの道路を移動する時は、なるべく、海から目をそらしていましたが、ある時、アメリカから来たボランティアがかけてくれた「自然豊かで、いい町に住んでいるね」という何気ないことばが、私の心が癒されていく、きっかけとなりました。そして、いつも神さまの愛と平安と慰めを携えて、仮設の方々に寄り添って下さる姉妹といっしょに活動する中で、私自身が癒され回復することが出来ました。

教会では、一昨年のクリスマスに仮設に住む82歳のおばあちゃんが洗礼を受けました。その方は震災の日は東京の娘さんの所へ行っていたので、助かりましたが家は全部流されてしまいました。混乱した状況が少し落ち着いて仮設に住めるようになってから宮古に戻って来たのですが、毎日泣いて暮らしていたそうです。でも、支援活動を通じて、クリスチャンとの出会いがきっかけとなり教会に通うようになりました。そして、「全部流されてしまったけど、しかたない。でも皆さんに会えて本当に良かった」という言葉が口癖になりました。今では教会で得意の料理を振舞



ったり、ボランティアチームを自分の部屋に招いておもてなしをするのを楽しみにしておられます。教会に来て、はじめは、聖書を開くのは、なかなか難しい事ですが礼拝の箇所はひとりで開けるようになりたいと、毎週練習しておられる姿にとっても教えられます。

震災から3年が過ぎて、宮古の町並みは、少しずつ変わっています。新しい家やアパートが建ったり、復興住宅の建築もはじまり道路や堤防の工事も続いています。わずかですが、新しく住む場所が決まり、仮設を出た方もいます。明るいニュースもありますが、それとは反対につらい知らせもあり、年数がたつにつれ、問題や課題は複雑になっているように思います。

このような状況の中で3年間の宮古の教会の歩みや支援活動の働きが、皆さんの祈りとご支援によって支えられ、守られていますことを感謝致します。この活動を通して知り合った地域の方々の中から、教会へ導かれる方が起こされている事を感謝します。

最後に、今も変わらずに祈り、献げ続けて下さっている方々、チームを送り続けて下さっている方々、物資やケーキを送って下さる方々、現地に出向いて下さる方々、新しい祈りの課題はないかとメールを下さる方々、皆さんのあたたかい支援を心から感謝致します。3.11 教会ネットワークの牧師先生を始め、スタッフの皆さんに感謝致します。そして、いつも、先立って、導いて下さっている天の父なる神様に感謝致します。

# 大船渡でなされた主のみわざ

## 大船渡聖書バプテスト教会 新沼友子

大船渡聖書バプテスト教会も津波の被害に遭い、大きなガラス窓が6枚割れ教会内はヘドロまみれになり、残っていた長テーブルも玄関から半分飛び出している状態でした。最初はとても中に入れる状態ではありませんでした。そんな中岩手の教会の先生方は被災した教会を見て歩いてきたそうで、佐々木真輝先生・若井和生先生が私の家にも心配をして来て下さいました。

私自身は職場で被災したため市役所へ泊まり翌日に徒歩で帰宅しました。幹線の国道45号線も津波で瓦礫の山となっていたため、道路が寸断され復旧するまでにかなりの日数がかかるだろうと思ひながら、約5kmの道のりを通常であれば1時間と少しかかるところを約5時間かかり家路につきました。

教会も何とか玄関のドアを閉めたいと思ひましたが、車が被災していたため家から歩いて教会へ行きバケツで何度もヘドロを汲んでは外へ出す作業を3-4時間ほど繰り返す、ようやく何とかドアを閉めたり、飛び散っていたガラスの破片を1ヶ所に集めたりと少し片付けをしましたが果てしない作業のように感じました。

教会の復旧には半年くらいはかかるだろうと思ひましたが、青森の鯨ヶ沢教会のエリオット宣教師が中心となって、高压洗浄機等であつという間にヘドロも綺麗に取り去られました。それから多くの資材が運ばれ、見る見るうちに的確に手際よくどんどん補修されました。屋根までも塗り替えられて、3ヶ月で以前よりも素敵な教会になりました。そして教会はまた新しいスタートラインに立たせて頂きました。

前の牧師先生が2012年9月30日付で辞職していき、同じく一人の姉妹も教会に退会届を置き教会を去りました。その後、以前から一関に移住する計画を立てていた姉妹も、突然倒れたお父さんの介護も含め家族で2013年3月末には引越して行く事が決まりました。私と息子二人だけが残されてしまう事となり、日曜日に息子が仕事の時に



は、私一人だけの礼拝となってしまいました。その時メッセージのご奉仕に来て下さったのが若井和生先生でした。先生はいつもと変わらず大きな声で賛美して下さい、メッセージをして下さいました。

次の日曜日に近藤愛哉先生がメッセージに来て下さいました。その時に3.11のスタッフの働きの中で仮設に住んでいる子供たちや大人の方たちとの交流のことを聞かされて、その人たちがもしかすると教会に来てくれるかもしれないと思ひました。そしてその日の朝に読んだデボーションの箇所が、ゼカリヤ8章で年老いた男女や子供たちでいっぱいになり人々が世界中から来るという様な事が書いてあつた事を思ひ出し、その事を話しました。するとすでにアメリカから大船渡の地に示されて来る人がいることを聞かされてビックリしました。

本当に何も出来ない自分にはここには居られないと思ひ、逃げても良いなら逃げてしまいたいと思ひました。そうもいかず神様に祈ったところ「権力によらず能力によらず私の霊によって」と示されました。私の霊によってとはどういう意味ですかと祈ったところ、交わりもてなしと示されました。それなら出来るかもしれないと少し安心しました。

そして今は以前とは打って変わって教会は多くの方々が来て下さり、外国の方々も多く来て下さっています。今3.11のスタッフのウィットワー・フレッド兄や千加子姉また大塩梨奈姉、またカリフォルニアからステーブン・ベイ宣教師ご家族、そして一関に移住のはずでしたが姉妹がまた大船渡へ帰ってきました。それに私たち親子です。

(4ページに続く)

近藤先生は2013年5月から大船渡教会の顧問牧師になって下さいました。先生が来て下さるといふ事で驚きましたが私たちは大喜びしました。そして教会が明るく活気づいてきました。毎週のように礼拝には今までより多くの方々に来て下さり、礼拝の後の交わりも通訳を介して色々な証しが聞けて本当に楽しい交わりをさせて頂いております。また月1回夜7時からの祈祷会もとても有意義で、10時を過ぎてしまう事も度々ですが楽しくて、いつも私たちは「良かった」と言いながら帰ります。

新しい先生が与えられるまで大船渡の教会も何らかの使命がもし神様から与えられているとしましたなら、愛哉先生を通して主のみわざがなされて建てあげられていきますように願っております。今、3.11のスタッフの方々によって、神様を受け入れ信じて救われている方々が起こされている事を本当に感謝し喜んでいきます。

◇3.11いわて教会ネットワークに関わる働きは皆様からの献金によってすべて支えられています。2013年度も多くの献金が寄せられ、働きが円滑になされたことを心から感謝します。今後とも祈りとご支援を宜しくお願い致します。

◇大震災後4年目に入り、被災地での課題はより複雑化・深刻化してきており、現地で労するスタッフも様々なストレスに晒されています。スタッフ一人一人の霊肉の支えのために続けてお祈り下さい。

## 2013 年度会計報告

### 収入の部

科目	金額	備考	
一般収益	一般献金	¥14,913,483	3.11 献金
指定献金	支援ベース指定	¥1,428,328	支援ベース維持管理費支援指定
	その他指定	¥566,331	車両指定ほか
雑収入		¥2,607	預金利子
<b>収入の合計</b>		<b>¥16,910,749</b>	

### 支出の部

科目	金額	備考	
支援活動費	人件費	¥6,300,000	短期/長期スタッフ支援
	支援物資	¥406,480	支援物品・支援食材
	支援献金	¥0	現地教会サポート献金
	活動費	¥610,861	活動諸費用
<b>〈活動費合計〉</b>		<b>¥7,317,341</b>	
活動管理費	住居費	¥3,280,712	支援ベース修繕費、家賃、水道光熱費
	会議費	¥251,813	3.11 いわて会議費
	福利厚生費	¥30,000	スタッフ医療費
	事務通信費	¥197,698	
	広告宣伝費	¥180,045	各報告集会費用、出版物購入配布費用
	車両関係	¥3,053,803	ガソリン、修繕、保険
	備品	¥108,239	各ベース備品、活動備品
	雑費	¥251,480	雑損処理
	人件費基金繰入	¥3,341,800	
<b>〈活動管理費合計〉</b>		<b>¥10,695,590</b>	
特別収益	人件費基金取崩	¥0	
	指定献金取崩	¥20,000	
	盛岡ベース基金取崩	¥656,149	支援ベース使用諸費用
<b>〈特別収益合計〉</b>		<b>¥676,149</b>	
当期収益		¥-426,033	
前記繰越金		¥5,899,571	
<b>次期繰越金</b>		<b>¥5,473,538</b>	繰越剰余金

期首 2013年3月11日～期末 2014年3月10日

## 2～4月に支援に駆けつけて下さった教会・団体

シンガポールチーム、インパクトチーム、アメリカ日本人教会チーム、玉川聖学院 OG チーム、玉川聖学院、合同教会、RJCPN チーム、ユナイテッド・プロジェクトチーム、青山学院チーム、東京聖書学院、エヴァンゲリウム・カントライ、旭川チーム、聖書宣教会、つがる福音キリスト教会、元クラッシュジャパン・ボランティアチーム、聖契教団チーム、オーストラリア高校生チーム、小羊キリスト教会、陸前高田キリスト教会、気仙沼第一聖書バプテスト教会、盛岡聖書バプテスト教会、盛岡みなみ教会、北上聖書バプテスト教会、水沢聖書バプテスト教会、宮古コミュニティ・チャーチ（その他、個人で駆けつけご奉仕下さった方々が多くおられます。）